

### 大会スローガン 安心社会へ 新たなチャレンジ ～すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ～

連合鳥取は11月25日(木)、ハワイアロハホール・大ホールにおいて「第29回定期大会」を開催し、2021年度の活動の総括を行うとともに、2022年度の運動方針、予算、「ジェンダー平等推進計画フェーズ1」を確認した他、新役員を選出し、新年度のスタートを切りました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して短時間開催とするため、来賓は4人にご臨席いただきました。

※出席状況 / 代議員 (定数129人) / 111人 (うち女性27人・女性参画率24.3%)  
 特別代議員 / 4人 (うち女性1人) 傍聴 / 1人  
 執行部 (定数39人) / 34人



### 来賓のみなさま



- ごあいさついただいた来賓のみなさま
- 【写真左から】 連合本部 山根木晴久副事務局長  
 鳥取県 平井伸治知事  
 鳥取県労働局 石田 聡局長  
 衆議院議員 湯原俊二さん 裕子夫人
- 多くの祝電・メッセージもいただきました
- ・推薦議員各位 ・県議会議長 ・市長各位
  - ・福祉・事業団体代表者各位 ・連合中国ブロック連合会各位
  - ・鳥取退職者連合会長 etc.



### 大会・議案討議の様子



### 議長団



### 開会あいさつ



### 活動報告・議案提案



### 各種委員長の報告

- 【左より】  
田中文人資格審査委員長  
安養寺芳美大会運営委員長  
金田慎一選挙管理委員長

### 第3号議案/連合鳥取ジェンダー平等推進計画フェーズ1

男女間賃金格差など“男女”の不平等の解消と、そのための男女平等参画は変わらず重要な課題である。その上で、男女二元論にとどまらない性のあり方の多様性や、性以外も含めた多様性の尊重が重視される中で、性的指向・性自認(SOGI)の尊重については、より明確にし“ジェンダー”に関する課題として差別やハラスメントの根絶に取り組みなければならない。

19年間3次にわたる男女平等参画推進を着実に前進させ、ジェンダー平等社会の実現に向け、構成組織トップのリーダーシップのもと、総力をあけて取り組みましょう!



連合鳥取  
ジェンダー平等推進計画フェーズ1  
～世界の潮流は、2030年～  
【2021年までに憲法改正の賛成率も50%】  
《計画期間：2021年11月～2030年10月》  
フェーズ1：2021年11月～2024年10月（3年）  
フェーズ2：2024年11月～2030年10月（6年）  
※フェーズ2は、後述のとおり中間評価を実施し、必要に応じて見直しを行う。

運動目標(スローガン)と具体的な目標  
スローガン「労働組合における男女平等参画」  
「職場・社会におけるジェンダー平等の推進」

1 運動方針の決定  
人権・社会正義の観点から、労働組合の活動とジェンダー平等の推進を一体的に推進する。

2 就業生活の改善  
労働組合の活動とジェンダー平等の推進を一体的に推進する。

3 労働組合の発展  
労働組合の活動とジェンダー平等の推進を一体的に推進する。

連合鳥取の取り組み

- 1 男女平等参画の推進とフォローアップの強化
- 2 クォータ制の導入とポジティブ・アクションの強化
- 3 組織・労働・政策課題と男女平等参画の一体的な取り組み
- 4 人材育成の充実
- 5 女性委員会の組織強化
- 6 構成組織の取り組みへの支援
- 7 地域協議会の取り組み

構成組織の取り組み

- 1 男女平等参画推進方針の決定
- 2 男女平等推進委員会の設置と推進計画の策定・実行
- 3 男女平等推進担当部署の設置
- 4 女性の意見が反映される組織づくり

各構成組織のトップのリーダーシップのもと総力をあけて取り組む



### 報告・運動方針へ寄せられた質疑&ご意見(主旨) (青)執行部答弁

1. 「うなばら荘職員労働組合」への支援について(報告) / 藤縄代議員  
 日吉津村の「うなばら荘」が3月末廃止される。自治労は加盟単組の「うなばら荘職員労働組合」の組合員が解雇されることに対して様々な取り組みを展開してきた。連合鳥取、西部地域協議会にも強力なご支援をいただいていた。この場を借りてお礼を申し上げます。  
 今後、大きな山場に向かっていくことは間違いがなく、当然、自治労としては最大限の力で取り組んでいくが、連合鳥取においてもこれまで同様にご支援をいただきたい。  
 ⇒ 連合鳥取は自治労と一緒に「鳥取県西部広域行政事務組合」に要請文を出すなど、これまでも連携して取り組んでいる。働く人にまず光を当て、雇用を守り、生活を守る、これが第一義だと思っている。誰一人取り残されることなく、上手く収束するよう、引き続き自治労のみならずと連携して取り組んでいく。
2. 「県内私立高校の課題」に対する支援のお願い / 高見代議員  
 現在、教育現場では文科省方針により急激に「ICT化」が進行している。民主党政権時代に始まった就学支援金制度により保護者負担の軽減措置が図られながら、一方で教育現場での保護者負担も過大なものになってきている。誰もが安心して高校教育を受けられる、私立高校を含めた県内高校教育の環境整備について、引き続き連合鳥取のご指導ご支援をお願いしたい。  
 ⇒ 毎年継続的に実施している「全国一般私学部会と県との意見交換会」で私学の現状を、働く側の立場、先生の立場から県に提起している。「タブレット問題」、「貧困問題」など多岐にわたる問題についても把握している。一番の問題は「学ぶ環境ができていない」こと。トイレや冷暖房の設備が整っていない中、四苦八苦対応されていると認識している。鳥取県は「一人当たりの支援金」というのは全国一位だと言っているが、その補助金が設備改修等にまわっていないのが現状であり、引き続き、全国一般労組のみならずと連携し、改善されるよう精一杯努力していきたい。
3. 「連合会費」について / 高見代議員  
 連合本部が進めている「会費の中央一括徴収と地方連合会への交付制度」の方法に対し、地方での課題への取り組みが少しずつできなくなるのではないかという懸念を持っている。現段階での連合会費の中央一括徴収の議論経過の状況と、今後の予定等について伺いたい。  
 ⇒ 現在の「連合鳥取会費(月額1人)」は組合員150円、パート組合員75円となっている。向こう3年間を準備期間とし、規約改定等もあるため9年かけてルール変更すると確認されている。具体的にはこれから組織議論がなされると聞いているので、機会を捉えて資料等提供し、お知らせしていきたいと考えている。



## 大会宣言

### 提案 寺田真里執行委員 (女性委員会・委員長/全労金)

本日、私たちは向こう1年間の運動方針を確立しました。コロナ禍により、多くの働く仲間とその家族が大きな影響を受け、より弱い立場にある仲間ほど困難な状況に置かれています。私たちは、すべての働く仲間と生活をまもり、労働組合の役割を最大限発揮していく、その決意を確認しました。

いま、わが国では、貧困と格差、加速する人口減少・超少子高齢化、脆弱な社会的セーフティネットなど、社会経済の持続可能性にかかわる課題が山積しています。

このような中、連合鳥取は連合ビジョン「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」を基に、組織拡大・強化、総合労働条件改善、労働・生活の質の向上をめざした政策実現、地域に根差した顔の見える活動、平和・人権を守る活動、ボランティアをはじめとした社会貢献活動、人材育成と労働教育の取り組み等を運動方針に掲げました。

加えて、働く人、生活者の立場に立った政策実現のため、来年の第26回参議院議員選

挙、各種地方選挙に総がかりで取り組むことも確認しました。

あらゆる活動の基盤は組織の拡大・強化です。集団的労使関係の価値を社会に広げる営みと同時に、コロナ禍も踏まえた新たな運動スタイルを確立し、これまで労働組合・連合運動が接点を持ち得なかった人々との関係づくりを強化するなど、私たちが率先して運動の革新にチャレンジしなければなりません。

いまこそ、すべての働く仲間とつながり、連合の政策と運動を広く社会に発信し、共感と参加・行動の好循環を創り出し、一人ひとりをまもり、地域をつなぎ、人権が尊重されジェンダー平等と多様性に満ちた安心社会の構築へ果敢に挑戦しましょう。

連合鳥取は、丁寧な合意形成のもと構成組織、地域協議会と一体となって運動を展開し、「働くことを軸とする安心社会」実現に向けて、すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」となる連合運動を前進させることをここに宣言します。

